

ベトナム・出土木製品保存に関する拠点交流事業

ベトナムの首都、ハノイ市の中心地で、大規模な皇城の遺構が発掘されました。タンロン皇城遺跡です。この遺跡からは建物に使われた木材が大量に出土しています。これを機にベトナム国内ではベトナム林業大学を中心とした出土木製品の調査とその保存にかんする研究が始められました。東南アジアに生育している樹木は日本のような温帯に生育するものとはその性質が全く異なります。非常に重たくて硬い高密度材や、乾燥によって割れやねじれを起こしやすい木材があります。これまで東南アジアでは出土木製品の調査や保存についての研究はあまりおこなわれてきませんでした。

日本ユネスコ信託基金によるタンロン・ハノイ文化遺産群の保存整備事業(2010～2013年)をきっかけに、ベトナム側から、ベトナム産出土木製品の調査と保存にかんする技術協力が強く要請されました。しかし、日本でこれまで広く用いられてきた出土木製品の保存処理方法を、そのまま適用することは困難です。そこで、文化庁からの受託事業として、ベトナム林業大学、奈良文化財研究所および京都大学生存圏研究所の3者が共同し、ベトナムで出土する木製品の調査と保存処理の技術移転と人材育成を目指した拠点交流事業が始まりました。

この拠点交流事業は、ベトナム出土木材樹種同定に係る共同実験、出土木製品にかんする保存処理方法の検討、およびベトナム全土から出土した木製品調査の実施と国際研究会の開催の3つの項目からなります。熱帯の出土木製遺物の保存処理法の確立という世界的な課題にむけての最初の一步といえるでしょう。

(埋蔵文化財センター 高妻 洋成／企画調整部 田代 亜紀子)



タンロン皇城遺跡の煉瓦積みと木柱列遺構

復興事業にともなう貝塚の発掘調査に対する支援

現在、東日本大震災の被災地では、復興事業にともなう発掘調査が数多くおこなわれています。そして、津波の被害を受けた沿岸部には、縄文時代の貝塚が埋没している可能性があります。貝塚には、土器や石器等の遺物とともに、貝殻に含まれるカルシウムの影響によって通常の遺跡では残りにくい人骨や動物骨、骨角器が保存されており、過去の人々の暮らしを知る上で非常に多くの情報を与えてくれます。したがって、やむを得ず貝塚を発掘する場合には、円滑な復興と埋蔵文化財保護の両立を図るためにも、迅速かつ効率的な調査をおこなうことが重要な課題となります。

例えば、宮城県気仙沼市の波怒棄館^{はぬきだて}遺跡では、高台への集落移転(防災集団移転促進事業)にともなう発掘調査によって、保存状態の良い縄文時代前期の貝塚が見つかりました。迅速な発掘調査を実施するため、奈良文化財研究所では現地に職員を派遣して、宮城県や気仙沼市の職員や全国からの派遣職員の皆さんとともに、効率的に調査が進められるように作業をおこないました。

また、この発掘調査には多くの地元の方々が作業員として参加されていました。初めて貝塚の発掘調査に参加された方が多かったので、発掘する際の留意点を伝えるとともに、今回の調査であきらかとなる成果についても説明しました。地元や全国の皆さんのご尽力によって、波怒棄館遺跡の発掘調査は限られた期限の中で無事に終了しています。今後は奈文研において、波怒棄館遺跡から出土した膨大な動物骨や貝殻を分析して、縄文時代の人々の暮らしぶりをあきらかにしていきます。

(埋蔵文化財センター 山崎 健)



波怒棄館遺跡での説明の様子